

# 大宮市民局 NEWS



# おおみや トピックス

第14号



大宮町の人口

年齢	R2.2末（前月比）
0歳～14歳	1,313人（+3）
15歳～64歳	5,827人（-18）
65歳～	3,029人（+3）
合計	10,169人（-12）

## 地 全 農 保

### 将来に向けて農地を保全するために 大宮町広域協定運営委員会

将来、大宮町内の各集落において、高齢化や農家減少等が進み、農地保全作業が困難となること  
が予想されています。そこで、各集落が連携し活動組織を広域化  
することで、組織力の強化を行  
い、活動を維持・発展させること  
を目的に、「大宮町広域協定運営  
委員会」が平成31年に町内の5  
地区（口大野・奥大野・久住・明  
田・三坂）で発足されました。令  
和2年4月からは、善王寺区（一  
部）と谷内区が新たに加入し、7  
地区での活動が進められており、  
将来的には町内16地区全てでの  
活動を目指としています。

## 広域化のメリット

- ① 多面的機能支払交付金事業※1における申請・報告などの事務作業が事務局に集約され、各集落の作業負担を減らすことができる。 ※1：平成27年度に成立した「農業を有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」に基づき、農地保全のための共同作業に対して支援を行う制度。
- ② 未取組集落が新たに活動を開始する場合、単独で組織を設立する場合に比べて設立や申請に係る手続き等の労力が少なく済む。
- ③ 集落連携により、資金、資機材、人材、技術力の融通を行うことによる活動の活性化。
- ④ 資源向上支払交付金（長寿命化）※2において、交付額のメリット措置（上限設定の対象外）が受けられる。 ※2：老朽化が進む農地周りの農業用排水路、農道などの施設の長寿命化のための補修・更新等の活動に対し、対象となる農用地面積に応じた支援（多面的支払い交付金事業の一部）

## 農 業

### 近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール 小町の里生産組合が受賞

令和元年度近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクールが近畿農政局近畿地域環境保全型農業推進連絡会議主催にて開催され、小町の里生産組

合が近畿地域環境保全型農業推進連絡会議会長賞を受賞されました。取組は下記の通りです。

近畿農政局では、農業生産活動の持続性を確保するため、環

境への負荷を低減する取組として、GAP\*1を推進しています。

**GAPとは**  
農業において、食品安全・環境保全・労働安全等の持続可能性を確保するための一連の取り組みです。

#### 小町の里生産組合の概要（三重区・森本区の農家9人で構成）

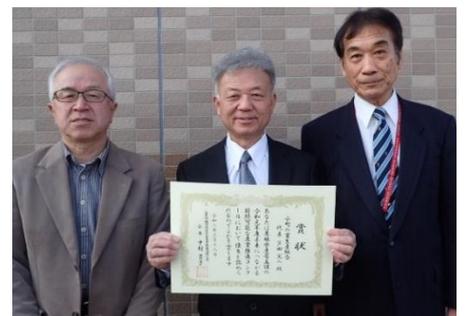
設立目的：地域をまきこんだ環境にやさしい農業の実践

取り組み：稲わらのすき込み、有機質肥料を施用した土づくり、冬季湛水の実施（生物の多様化）、ひよせ作り（生物の生息場所を確保）

今 後：①さらに環境に優しい農法を研究する

②地域住民が農業を通じて環境について考える機会を提供

③農産物の販路拡大へ向け、販売業者と消費者の意見交換会



小町の里生産組合代表の方々です

河 辺

区民の新たな活動拠点へ  
河辺区民センター竣工式

3月29日、河辺区民センターの竣工式が行われました。河辺区では、老朽化の進んだ公民館・自治会館への対応を最重要課題とし、平成27年より検討を開始、令和元年12月に完成しまし

た。新たな拠点として区民に親しまれることを重視し、建物の外観や間取りは区民から案を募集し決定されました。これから

の使用用途についても区民と共に考えていかれます。これを機に区民センターを活用してみてください。河辺区民センターの活動目標は、上記5つのとおりです。

昨年度まで利用していた河辺自治会館は、自主防災の防災センターとして活用され、地域の防災活動を担っていかれます。

河辺区民センターの活動目標

- ① 自治会・公民館機能を一体的に集約
- ② 災害時の一時避難施設として安心・安全を確保
- ③ 区民の活動をサポートするため無料開放を基本とする
- ④ 隣接する大宮診療所と連携した区民の健康づくり推進事業
- ⑤ 区民交流・生きがいづくり生涯学習・仲間づくり拠点



輝く人～大宮町から～

五十河地域おこし協力隊  
中川 圭さん

今回紹介するのは、中川圭隊員です。中川隊員は平成30年から五十河地域（明田区・五十河区・久住区・新宮区・延利区）にて地域おこし協力隊として活動しています。隊員としての活動内容や魅力、又今後の活動についてお答えいただきました。



■活動内容

① 地域行事等への参加

草刈り、林道整備、獣害対策等の作業、万灯、地藏盆、秋祭り、お宮参り、五十河文化祭写真展開催等、地域の様々な村行事に参加させていただいています。

② 五十河民家苑の活用

築30年の茅葺き古民家に住みながら、「古き良き」と「新しき良き」が融合しこれからの激動の時代に適した生き方や価値観を実践する拠点づくりを行っています。

③ 五十河わくわく探検隊

地元の子供たちと丹後半島の山や海を探検する「五十河わくわく探検隊」を立ち上げました。

④ 五十河新聞発行・配布

私の活動内容をまとめた「五十河新聞」を発行し、五十河地域195世帯を1軒1軒歩きながら配っています。

■地域おこし協力隊として発見した魅力  
移住して2年4ヶ月、地元の人と接していく中で、地に深く根差している地元の方々の「胆力」「知恵」に感銘を受けると同時に、村全体が1つの家族のような、都会や地方都市にはない村ならではの「古き良き日本の心」、「結の心」がまだ息をしている、素晴らしい文化が最大の魅力だと感じています。

■今後について

日本全体で高齢化が進む現在、昔のような「状態・形」に戻るのには厳しいと思います。が、こんな時代だからこそ「新たなカタチ」が必要だと考えています。3月に移住してきたオランダ人のジエイク（次号登場予定）と共に有機農業を進めていくことや、これからの時代に必要な知恵や技術を体現していける場になりたいと思います。みなさん、よろしくお願ひします。